



にこにこ通信第193号

2010/4/20

〒933-0804 高岡市問屋町 40 (有) 沖商店

沖 昌弘

TEL 0766-25-2525(にっこりにこにこ)

E-mail

FAX 0766-26-5500(ふるへごーごー)

oki2525@oki-shouten.com

謹啓 毎度格別のご最頁に預り厚くお礼申し上げます。

本通信は、皆様のご意見を頂いて私の人生修行の糧といたしたたく、ひと月に一度お届けしています。どうぞ、忌憚の無いご意見をお寄せください。よろしくお願いいたします。

一 義援金・布施・喜捨

謹白。

皆様ご存知の通り、最近私達が住んでいるこの地球上に、異変が多発しています。そのうち、最近、私の身近に起こった事だけ挙げて見ても、九州「新燃岳噴火」、豪州「ニュージーランド地震」そしてこの度の「東日本大地震」です。「新燃岳噴火」は正直言って対岸の火事ぐらいに思っていました。

「ニュージーランド地震」は私の住んでいる富山県の人達が大勢犠牲になりましたので「新燃岳噴火」より大きく受留められ、私なりに義援金の捧出も考えていました。

その矢先での、この度の「東日本大地震」です。「ニュージーランド地震」被害への援助もさることながら、今、日本国民の大多数は、この度の「東日本大地震」被害への援助を最優先として

いることでしょう。ところで、その援助の仕方にも種々ありまして、直接体をかけて行う、い

わゆるボランティア活動、各々の特技を披露して元気付ける芸能人やアスリート達のチャリティー活動、そして、何の特技もない私は「義援金」という形で物品や現金で協力するより仕方がなく、そんな私と同じ思いの方々が大多数だと思います。この「義援金」について少し考えてみたいと思います。

先日、私の親しくしている或る友人が親しさの余りからか、私に失礼な言葉を言いました。

曰く「私は『ニュージーランド地震』やこの度の『東日本大地震』の事件を耳にすると、自分は直接何も援助できないから、無理してでも義援金を出すが、お前は冷徹で、そんな心が少なく、お前の甲斐性の割には金を出さない」。

私はこの言葉を聞いて啞然としました。いくら親しいとはいえ、こんな失礼なことが言えるのだろうか、他者を思い遣る心が彼より私が少ないとは思えません。顧みて、私はそんな「ケチ」に思われているのだろうか、そして思うこと自体が邪見驕慢なのか、自問自答の中、一つの結論に達しました。彼の言葉は私が信じている仏教の中の菩薩が、私を教化するために、彼の肉体を借りて言わせたものだと思います。

即ち、私が平素、広宣している仏教の中で、「自己を犠牲にして他に益する」という修行（菩薩が仏になるための六修行中の一つで「布施」とか「旦那」と称されている）を、今こそ実行する絶好の機会なのに、汝は如何なのだ、菩薩が私に問い責めかけているのだと思いました。言い換えれば、「平素、こわくさい（生意気な）顔して、物言いながら、いざという時、如何なんだ」と問いかけてきたのです。

お釈迦さんは仏に成る前の菩薩の時、布施修行に於いて、自身の肉体を飢えた虎や鷹や僧に奉げました。私はまだお釈迦さんの域には行けません。自身の身は勿論、妻子が可愛とか、会社の存続が心配などという煩惱が盛ん過ぎて、それを優先した上で、自分の心に納得出来る限りの額を寄附・援助したいと思っています。

自らの命を顧みず、他人を救った人々の話を耳にする度に、自分の修行の足りなさを思い知らされます。

私には、本当にこの度の出来事は、神仏の試練としか思えません。

ですから、今現在の自分を丸裸にしてまで援助する思いにはなれませんが、出来得る限りの援助をすることを重ねて誓います（自分の心に懸けて）。